

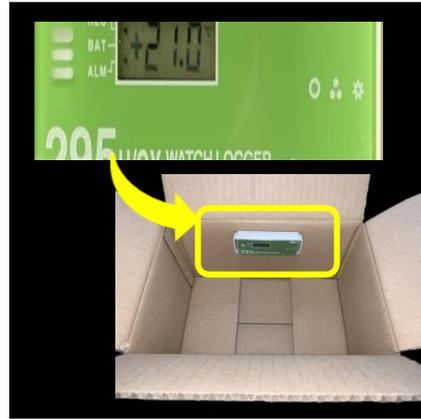


データロガーを用いた温湿度や衝撃発生時の加速度の記録

データロガーは、各種センサーにより一定間隔で測定したデータを自動保存する機器のことです。データロガーを使用することで、食品の冷凍や加熱殺菌時における温度履歴や、流通時の温湿度や衝撃が発生した時の加速度を記録することが可能です。今回は、データロガーを使った実験例をご紹介します。

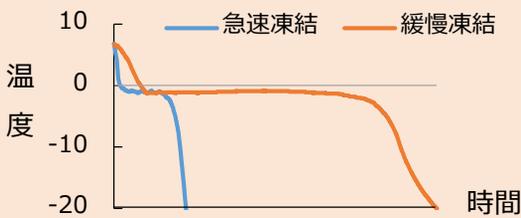


4ch 温度データロガー
(TM-947SD/マザーツール)
温度 $-50 \sim 1300 \text{ }^{\circ}\text{C}$
(Kタイプ熱電対使用時)



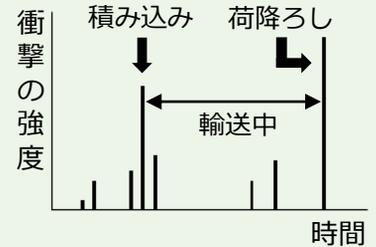
温湿度・衝撃データロガー
(KT-295U/GX/藤田電機製作所)
温度 $-40 \sim 80 \text{ }^{\circ}\text{C}$
湿度 $0 \sim 99 \text{ \%RH}$
加速度 $3 \sim 125 \text{ G}$ (XYZ軸)

- 例えば、冷凍や加熱時の目標温度に到達するまでの温度履歴の記録



緩慢凍結と急速凍結の温度履歴の比較

- 例えば、輸送時の温湿度・加速度データの収集



ブドウ輸送時の
脱粒数、損傷した粒数と衝撃のデータとの比較

- 環農水研の加工機器や分析機器を用いた試作や試験研究などをご依頼いただけます。
詳細は、右記の環農水研ホームページをご覧ください。
- お問合せは、
食と農の研究部 **食品グループ (072-979-7063)** まで。

<技術支援制度詳細>

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/shien/openlabo/>



環境農林水産総合研究所 技術支援制度

検索